

第 38 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 22 年 6 月 21 日 (月) 13:00~15:05
II 会 場 筑波大学大学院 (東京キャンパス) 仮校舎: 住友神保町ビル
「513K 講義室」(東京都千代田区神田神保町 3-25)

III 出席者〔学外委員〕

秋元勇巳、大崎 仁、柴崎信三、末松安晴、西野虎之介

〔学内委員〕

山田信博、清水一彦、赤平昌文、塩尻和子、田中敏、鈴木久敏、五十嵐徹也、阿部生雄、
宇川彰、西川潔

〔オブザーバー〕

大田友一システム情報工学研究科

畔上泰治人文・文化学群長

IV 議 題

〔審 議〕

- (1) 第 1 期中期目標期間の評価における実績報告書等について ----- [資料 1]
(2) 大学機関別認証評価に係る自己評価書の提出について ----- [資料 2]
(3) 重要な財産の不用決定及び取りこわしについて ----- [資料 3]

〔報 告〕

- (4) 平成 23 年度概算要求重点事項について ----- [資料 4]
(5) 『チーム「ニッポン」マルチサポート事業』の採択について ----- [資料 5]
(6) 「スポーツキャリア大学院プログラム」の採択について ----- [資料 6]
(7) 平成 22 年度入学者選抜結果について ----- [資料 7]
(8) 平成 21 年度卒業生・修了生アンケートの結果について ----- [資料 8]
(9) 経営協議会学外委員からの提言への対応 (平成 21 年度) について ----- [資料 9]
(10) 第 76 回教育研究評議会報告 ----- [資料 10]

〔部局の活動報告及び意見交換〕

システム情報工学研究科

V 議 事

〔審 議〕

1 第 1 期中期目標期間の評価における実績報告書等について

宇川副学長から、資料 1 に基づき、第 1 期中期目標期間の評価における実績報告書等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- 大学院学生が増えているが、問題はなかったのか。
△ 平成 19 年度から、学群生と大学院生の入学者が逆転し、大学院生は拡大しているが、それによる問題はまだ目に見えてこない。筑波大学は複数指導教員体制をとっているので、学位の取得率改善及び、留学生指導についても、英語による授業も 11 コースとなっており、チューターの充実ということも含めて、今後の課題である。
△ 卒業生、修了生のアンケート結果は良い方向に推移している。しかしながら、ポスドクの問題などまだまだ解決しないといけない問題もある。
○ また、司法試験の合格者が少なかったが、前提としては大学院で履修した者を全員合格させていただけるということで作ったはずだが、途中で方向転換したなら、クレームをつけてもいいのではないか。
△ 法科大学院については、本学は定員を 1 割減らして 40 人を 36 人にした。本学は社会人対象で、夜間に授業を行うなど、他の大学とは違う特色を生かしているが、対外的には司法試験の合格者数などは影響がある。本学教員は、受験予備校的な教育はしてはいけないとい

うことを非常に厳密に守っている。合格者を増やすためには、個別指導を増やすなど、教員も対策を取っている。

○ スタートした頃は、市場原理主義で法科大学院の計画要請など、申請があったものは受け付ける風潮があった。現在はオーバープロダクションであり、合格者数は当初から期待できなかった。現状は、見直すべきところにきている。ある意味では、撤退する大学もでてきている。法曹養成の成績を問われるが、筑波の場合は就職先が多様であるので、一概に判断し難い部分があるが、3人というのは少ないので、努力してほしい。

△ 今後努力していきたい。

2 大学機関別認証評価に係る自己評価書の提出について

宇川副学長から、資料2に基づき、大学機関別認証評価に係る自己評価書の提出について説明があり、審議の結果、承認された。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

○ 退学率はどのくらいか。

△ 学群では3パーセントくらいである。

○ 評価に伴う負担は問題になっていると思うが、認証評価は7年に一度ということで、法人評価と比べてどうか。

△ 7年も経過してしまうので、大変な部分もある。しかしながら、組織改編などを行うと、どうしても制度的に整備不足な部分があるなど、改めて自覚する意味でも、ある程度の間隔を置いて、認証評価のための作業を行うことは必要である。ただし、法人評価と認証評価の2つを同時に行うとなると大変になってしまうので、制度設計を見直してほしい。

△ 評価の簡素化については政府の方でも考えてもらっているので、大学としても今後一緒に検討していきたい。

3 重要な財産の不用決定及び取りこわしについて

田中理事から、資料3に基づき、重要な財産の不用決定及び取りこわしについての説明があり、審議の結果、承認された。

〔報告〕

4 平成23年度概算要求重点事項について

田中理事から、資料4に基づき、平成23年度概算要求重点事項について報告があった。

5 『チーム「ニッポン」マルチサポート事業』の採択について

赤平理事から、資料5に基づき、『チーム「ニッポン」マルチサポート事業』の採択について報告があった。

6 「スポーツキャリア大学院プログラム」の採択について

清水理事から、資料6に基づき、「スポーツキャリア大学院プログラム」の採択について報告があった。

7 平成22年度入学者選抜結果について

清水理事から、資料7に基づき、平成22年度入学者選抜結果について報告があった。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- 学群生の推薦入試の見直しについて検討する予定はあるか。
- △ 推薦入試については、開学当初より定員の30パーセント程度としており、検討の予定はないが、AO入試や後期試験については、一部の学類で廃止しているところもあり、見直しを検討している。

8 平成21年度卒業生・修了生アンケートの結果について

清水理事から、資料8に基づき、平成21年度卒業生・修了生アンケートの結果について報告があった。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- 全般的に、学生からの評価が高いというのは大変嬉しい話であり、努力の結果だと思う。しかしながら、企業への就職が減っているが、他の大学と比べてどうなのか。大学院修了生の中で「その他」とあるが、毎年増加しているこれは何か。
- △ 他の大学との比較においては、他大学と同じ傾向である。なお、「その他」というのはポストクや、司法試験・資格試験、アルバイトなどが含まれる。
- 修士と博士後期課程とで、集計結果を分けたデータはあるのか。それによっても結果が変わるのではないか。
- △ 今後は、修士と博士で区別した形で、データを作成したい。

9 経営協議会学外委員からの提言への対応(平成21年度)について

鈴木理事から、資料9に基づき、経営協議会学外委員からの提言への対応(平成21年度)について報告があった。なお、本件について意見がある場合は、次回の経営協議会でご発言いただくこととなった。

10 第76回教育研究評議会報告

学長から、資料10に基づき、前回の本会議以降に開催された、第76回の教育研究評議会の議事の概要について報告があった。

議事終了後、大田システム情報工学研究科長から、席上配付資料に基づき、システム情報工学研究科の現状について報告があり、意見交換が行われた。

以上